



胃カメラについて

内科 宮本 亮

公立世羅中央病院 内科医師の宮本亮と申します。今回は胃カメラについてお話をさせていただきます。

まだまだ胃がんで亡くなる方は多い！

最近の統計において胃がんの死亡率は減少傾向ではあるものの、死亡数は肺がん、大腸がんに次いで3位です。毎年4万人以上が亡くなっており、最も警戒しなければならぬがんの一つです。

胃がんの初期症状は無いことが多い！

早期胃がんでは自覚症状が出ることはほとんどありません。進行するにつれて胃痛、胸やけ、食欲不振などの症状を生じることもあります。胃がんは自覚症状に乏しいため健康診断などの胃カメラ、バリウム検査で見つかることも少なくありません。

ピロリ菌、調べたことはありますか？

胃がんは男性に多く、ピロリ菌感染、塩分摂取、タバコがリスクといわれています。日本のピロリ菌感染者数は6,000万人にもものぼると言われております。幼少期に感染するとされており、原因としては生活において不衛生な環境、離乳食の口移し、また井戸水の摂取などが言われています。去年から世羅町に赴任してきましたが、ピロリ菌を調べたことがなく、僕がピロリ菌を調べるようお伝えしたところ陽性であった、という方が世羅町にはかなり多いように思います。ちなみに、ピロリ菌は血液検査又は便の検査で測定可能です。

当院の内視鏡について

もし早期胃がんの段階で見つけることができれば、基本的には内視鏡による治療が行われ、根治できることがほとんどです。当院に導入されている最新の内視鏡は4K対応で視認性が高く、以前よりも初期の段階で発見できるようになっています。さらに、当院の内視鏡は直径が5.4mmとかなり細径であり、内視鏡後に「今までで一番楽だった」といわれる患者さんが多いです。基本的には鎮静剤を使わなくても問題ありませんが、どうしても不安な方は予め鎮静剤で眠ってもらった状態での検査も可能です。また、早期胃がんの内視鏡治療に対しても当院で行うことが可能です。

胃カメラを検討したときは？

当院の内科を受診し、「胃カメラを受けたい」とお伝えいただければ担当医師の診察により内視鏡検査の予約がされます。予約の日に私が内視鏡をさせていただきます。消化器内視鏡学会専門医であり、去年まで広島大学病院で研鑽を積んでおりましたので、高い質での内視鏡検査ができると考えています。是非内視鏡をご検討ください。

